



WALLABY

2015年5月25発行 No. 412

特定非営利活動法人 神戸日豪協会 〒651-0084 神戸市中央区磯辺通 4-2-8KIMMビル7階

Kobe Japan-Australia Society ☎078(252)0576 FAX 078(252)0347

事務所:月～金(10時～15時、来所の際は事前にお電話下さい) e-mail:kjas@hop.ocn.ne.jp

銀行振込 三井住友銀行 神戸営業部 普通預金 □座番号 1276351

郵便振替 □座番号 01130-6-58944 加入者名 神戸日豪協会

年会費(一口) 賛助会員 10000円、通常会員 8000円、学生会員 5000円
賛助ペア 18000円、通常ペア 12000円、法人会員 30000円

神戸日豪協会平成27年度総会& 日本語教師アシスタント帰国報告会第1弾

6/20(土)神戸市勤労会館2F 多目的ホール

神戸日豪協会総会 17:30～議事案(別紙)をご持参ください。(会員のみ)

帰国報告会 18:00～ 大人 1100円 学生 600円(予約不要・どなたでも歓迎)

泣いた! 笑った! 悩んだ! 乗り越えた!

2014年度日本語教師アシスタントが挑んだ涙と汗の一年間をご報告します。

第1弾はこの5名が報告予定



第2代ヒルス学園派遣 濱中貴道



第4代カシラル派遣 阿佐真登華



第12代BCC派遣 福岡可奈子



初代スコッツ派遣
大森尚子



第23代 GGS コライオ校派遣 長屋早織

第2弾は7/20(土)5名報告予定です!



4月度 新入会員のご紹介

谷川 厚子さま

*****派遣日本語補助教員☆便り*****

ハイキング、ハイキング、ハイキング

ジーロン・グラマー・スクール・ティンバートップ校
(マンスフィールド、VIC)
島山 彩

日本はだんだんとあたたかくなる時期ですが、南半球に位置するオーストラリアは冬を迎えようとしています。Timbertop はボイラーなしでは生活できないくらい寒くなってきました。

Term2 が始まり、一ヶ月が経ちました。Term1 では毎週末 Hike がありましたが、Term2 では生徒たちは毎週末 Unit Hike のチーム、School Service のチーム、Community Service のチームと3つのチームに分けられます。Unit Hike は Unit ごとに4日間のハイキング、School Service はそれぞれ校内で仕事を体験したのち、校内でキャンプするというもの、Community Service とは Mansfield 近郊の家にそれぞれ一日ホームステイして家事のお手伝いをするというものです。

週末に School Service 担当にあたった先生たち、アシスタントはそれぞれ朝の当番 (school service の担当スタッフ)、夕方からの当番 (school service のキャンプ担当のスタッフ) に分かれて仕事をします。

また、Term1 では週二回だった Crossie と Long run ですが、Term2 では CrossieA, Long run, CrossieB と回数が一回増え、さらにチャレンジ精神とフィジカルの両方の

面から生徒たちを鍛える内容になっています。

先週末は私が担当する M ユニットの Unit Hike がありました。普段は5、6人のグループに分かれてのキャンプですが、今回は初めて Unit 全員での Hike で生徒たちはとてもウキウキしていました。

一日目はとても天候がよく、Bluff という景色のよいコースをとおって、Bluff Spur Hut というとても眺めのよいキャンプ場でキャンプをしました。

大きなキャンプファイヤーを焚き、パスタを食べたあとにみんなで木の枝に刺したマッシュマロを頬張りました。

二日目、三日目と天気は下り坂となり、三日目は気温がグンと下がり、雨と雹が降り、ランチタイムは雨のなか全員ずぶ濡れで凍えるほど寒いみじめな姿で、とても汚い Hut での食事となりました。生徒たちは笑顔を失くし、本当にみじめな姿でした。しかし、食事担当の子供たちが一生懸命全員分のピザを作り、スープを作ってくれたおかげで、少しみんな元気を取り戻しました。食事は本当に元気の源だなと感じた一日でした。三日目の夜は Riches Hut という素敵な Hut での食事、火を焚いて語り合い、最高のひと時を過ごしました。Riches Hut に到着したときの生徒たちの喜んだ顔は忘れられません。今までで一番キツイ Hike でしたが、キツイ状況だからこそ、得られるものがありました。生徒たちの助けあう姿やポジティブな姿を見て、補助する側の

はずの私がとても勇気づけられました。

ここにきて3か月と少し経ちました。この3か月で一番感じていることは自分の非力さです。もっと仕事をしたいのになかなか上手いかず、悔しい思いもたくさん経験しました。今までを振り返ってみると、自分が周りに助けられてばかりいる気がしてなりません。少し前までは気持ちばかり焦っている自分がいましたが、無理をしても無駄だということに最近気が付きました。自分では気が付きませんでした。周りの人から成長したねと言われる回数が増えました。第三者からの視点は自分では気づかなかったことに気づかせてくれるので、ありがたいです。

これからも残りの Term2, Term3, Term4 を自分のペースで一步一步、着実に頑張っていきたいと思います。(5月10日)



4月になって

ピース・ルザラン・カレッジ
(ケアンズ, QLD)
伊藤 梨 絵

4月はイースターのお祝いがありました。お店にはイースター用のチョコレートが並び、学校でもチョコをプレゼントしている場面をよく見ました。もらった子たちの顔はとても嬉しそうで見ていると和みました。日本ではイースターを祝うことは定着していないので、日本に帰ったら家族や友達にプレゼントしたいなと思いました。

授業で折り紙をしました。PLC に来てくれた福島の被災した子供たちのために“鶴”を折りました。Year1 は筆記用具の名前を勉強していたので、鉛筆を作ったり、子供の日には“兜”を作ったりしました。折り紙をしている時の生徒たちの顔は本当にキラキラしていて、嬉しそう、正直こんなに折り紙に興味を持ってくれるなんて思ってもみませんでした。そして私がもっとた

くさん、いろんな折り紙が折れたらよかったのと思いました。でも、日本語のゆか先生はすごいんです。折り紙のプロみたいで上手です！子供のころは折り紙で遊んだりしていたけどいつの間にかしなくなってしまって、折り紙の楽しさを忘れていました。久々に折り紙をして私も楽しみました。Year2 の生徒たちは毎回のように入賞作品を授業の始めに発表してくれます。生徒のために鶴を折ってあげると本当に嬉しそうにしてきて、その笑顔に元気をもらいます。福島の子供たちのために作る鶴を放課後にも作るよと呼びかけるとたくさん集まってくれて、日本人としても嬉しいことでした。

4月の始めに Term1 が終わり、ホリデー・シーズンに入りましたが、振り返るとケアンズに到着した最初は、このプログラムで経験する多くのことが私にとって初めてのことで、緊張と不安の毎日でした。でも、素晴らしい先生方や生徒たちに助けられてなんとか頑張っています。一日一日を大切にして Term2 も授業のアシスタントを先生や生徒たちのためにしっかりできるようがんばります。

(5月10日)



キャンプ体験

ナビゲーターカレッジ
(ポートリンカーン, SA)
米 山 実 貴

4月の下旬、ナビゲーターでは term2 が始まりました。制服が夏服から冬服に衣替えしたせいか、ホリデー後の生徒たちの雰囲気は少し変わって帰ってきたように感じました。


日本語の授業は、term1 からテーマが変わった学年もあれば前期の続きから始まる学年もあります。year8、9、10 と高学年は前期の続きからの授業。中学年、低学年は前期の内容も使いつつ、新しいトピックに入りました。

授業が再開して驚いたのは、高学年の生徒よりも比較的 low 学年の生徒の方が前期の内容を覚えていたことです。授業の内容の濃さや、習った単語の数等に違いはあるものの low 学年の生徒は習ったことをしっかりと覚えており、year1 の女の子は授業が始まる前のほんの少しの時間に 1 から 10 のカウントを披露してくれました。他にも前期に歌った『メリーさんの羊』を歌ってくれたり、楽しく学んでくれている様子でとても嬉しく感じました。

新学期が始まったばかりのため、今回は学校行事のお話を書こうと思います。ナビゲーターカレッジでは毎年、term2 が始まってすぐに year4/5 以上の学年はキャンプへ行くことになっています。行く場所は学年ごとで変わりますが、year4/5、6、7、8 はポートリンカンから車で 2 時間ほどのキャンプ場へ行きます。テントで泊まる学年もあればドミで泊まる学年もありますが、どちらにしても寝袋持参で自然の中で過ごすキャンプになります。ポートリンカンならではの感じたのは、year9 の都会キャンプです。year9 は都会の生活を体験するというので 4 日間アデレードで過ごしました。キャンプと呼んでいますが、生徒たちはホステルに滞在しバス電車の公共交通機関の利用やレストランでのマナーを学びます。学校行事で数日間の都会体験の話聞いたことがなかったので、学校の友達とアデレードに行けるなんて羨ましい！と単純に思いました。ポートリンカンには大学が無いので、高校卒業して大学へ進学する場合は他の町へ行きます。しかしポートリンカンには電車もバスも無いので、都会体験での経験は生徒たちにとって必ず助けになるポートリンカンならではのキャンプなのだと感じました。

私は year4/5 のキャンプに参加させてもらいました。参加の是非を聞かれたとき、英語に自信がないのと、引率という責任感からすぐに答えを出せませんでした。すると日本語の先生、シェリー先生が私の代わりに参加と学校に答えてくださり、参加さ

せてもらうことに・・・キャンプに行くまでは不安で不安で仕方ありませんでした。しかし、キャンプが始まってしまえば食事の準備、テント組み立ての準備、アクティビティの手伝い、キャンプファイヤーとばたばたと時間が過ぎていきました。アクティビティではアボリジニアート体験の手伝いをしました。生徒たちは授業中とはまた違った様子でたくさん話しかけてくれ、フリータイムにはバレーボール、ブランコ等で遊んだり、生徒たちとキャンプを楽しむことができました。学校内では日本語の先生と過ごす時間が多く他の先生とは休み時間しかないため、このキャンプでは year4/5 の先生はじめ引率の先生とコミュニケーションが取れるいい機会になりました。自信が無くても何でも飛び込むことが大切だと身を以て学びました。シェリー先生には感謝感謝です。
(5 月 10 日)



ホリデー報告&ジャパンプラブ。

ザ・カンドラル・スクール (タウンズビル・QLD)
前 田 愛

あっという間に Term1 が終わり、Term2 が始まりました。この間オーストラリアに来たばかりだと思っていたのが実際はもう 4 分の 1 も過ぎたと思うと、少し焦りを感じますが、おかげさまで充実した毎日を過ごしています。そして先日、Term1 と Term2 の間には、約 2 週間の holiday がありました。普段、試行錯誤しながらも楽しく仕事をさせて頂いている上に、毎 term 終わるごとに holiday があるなんて。日本だと社会人 5 年目の年で、周りは毎日朝から晩まで忙しく働いているのに、自分だけオーストラリアでこんなにのんびり幸せな暮らしをしているなんて罪悪感すら感じます。時間がゆっくり流れている分、日本だとなかなかできない事に時間を使えたり、色々な事を考える時間がたっぷりあるの

で、今はたくさん知識や経験を吸収して人生の充電の時期になればと思っています。それを良い事に、初めてのホリデーではここぞとばかりにオーストラリアの色々な都市に行ってきました。

今回の報告書ではホリデーについてと、それだけだと遊んでばかりみたいなので、cathedral school の Japan club について報告させていただきたいと思います。

まずホリデーについてですが、今回は同じく補助教員として派遣されている今泉さんと Perth と Melbourne に旅行しました。私の住んでいる Townsville はオーストラリアの北東に位置するのですが、今回行った Perth は西側、Melbourne は南側なので、なんだかオーストラリアを 1 週した気分です。特に Townsville から Perth への移動はオーストラリア大陸の東の端から西の端まで横断することになるので、飛行機で約 6 時間もかかり、国内ですが海外旅行のような気分でした。そしてやはり時間がかかるだけあって同じオーストラリアでも気候から街の雰囲気まで全く別の国のようでした。Perth では、1 日街歩きをした後は Fremantle という隣の街に移動してそこで 5 日間ほど過ごしました。Fremantle は、19 世紀前半から現在まで、数々の歴史的建造物を保存し発展してきたことから、『世界で最も 19 世紀の面影がある港町』と言われているようです。その言葉通り、独特な雰囲気が漂うとても素敵な街で、着いた瞬間からテンションが上がりっぱなしでした！昼からお酒を飲んでゆっくりしたり、フェリーで近くの島に遊びにいたり、ビーチで昼寝をしたり、日本から海外旅行をする時はいつも目一杯予定をつめこまなければなんだかもったいない気がして全力で遊んでいましたが、オーストラリアに住んでいるというだけで心に余裕ができたのか、これぞホリデー！というようなあえて何もしない贅沢な時間を過ごすことができました。そして今回 Fremantle での最大の収穫は、バックパッカーのホステルに泊まったことです。安さと場所を重視したこともあり、

今までバックパッカーのホステルに泊まったことがない初心者にとってはかなりレベルの高いホステルでした。二段ベッドが 3 つある 6 人部屋だったのですが、最初部屋に案内された時は驚愕し、もう笑うしかありませんでした。服や荷物が床に散乱し、ロッカーからは物が溢れ出ていました。その部屋には、すでに 3 ヶ月ほど住み込んでいる女の子や、毎朝早朝からサーフィンに出かける男の子など、性別国籍問わず色々な子達がいました。なんだか汚いし、トイレもシャワーも男女兼用、夜中じゅう若者たちの騒ぎ声と爆音の音楽が鳴り止まないし、苦手なネコも住んでいて、プライバシーもない上セキュリティなんてもってのほかでした。最初はもっと普通のホテルに泊まれば良かったと後悔しましたが、2 日目くらいからはだんだん慣れてきて、なんだか楽しくなってきました。そして最後には、ここで生活できたんだから、もうなんだってできるという自信に満ち溢れてきました。笑 夜、共用スペースでごはんを食べていると、ホステルに泊まっている子が話しかけてきてくれたりして、そこに泊まっている色々な子達の話聞くこともできました。様々な国から様々な目的で集まってきていて、今ここで同じ場所に住んでいるのがなんだか不思議で、でもそれがすごく素敵で特別なことだと思いました。次の機会もバックパッカーの宿に泊まるかと言われたら即答できる自信はありませんが、今回このホステルで生活したことは間違いなく私にとってとても貴重な経験になりました。そしてこれはオーストラリアで暮らしているからこそ得られた経験だと思えます。

Fremantle で人生初体験をした後は、Melbourne に移動し、久しぶりの大都会を思う存分楽しみました。Melbourne では、今泉さんが派遣されている GGS のシェアハウスにお世話になりました。今回の旅行で、もう一つ私にとって大きな収穫がありました。それは、同年代の人と英語でコミュニケーションをとる機会があったことで

す。今泉さんのルームメイトのドイツ人の語学アシスタントの子がちょうど私とほぼ同じ年で、Perth でも途中合流して一緒に過ごしたり、GGG のシェアハウスでは毎晩リビングで一緒に過ごしたりしました。先生でも生徒でもなく、同じ世代の人と英語で話すことは、ただ言語が英語なだけで会話の内容は日本で友達と話すようなたわいもないことでした。しかしそれが私にとってとても新鮮であり、新たな発見でした。というのも私にとって一番身近な“友達”という存在だったのは一緒に住んでいるルームメイトたちだったのですが、これまで彼女たちの行動や会話の内容はなんだか私にとって少し違和感というか、不思議な感じがしていました。そしてそれこそが国や文化の違いなんだと思っていました。しかし今回初めて同年代の“友達”という立場の人と話をし、一緒に生活したことで、うすうす感じてはいましたが、私がルームメイトたちに感じていた違和感とは国や文化の違いではなくて年齢や世代の違いだったんだということに気づきました。笑（ルームメイトたちは8つも年下なので世代がかなり違います）何が言いたいかというと、国や文化の違いというのは、私が聞かされたり思っていたよりも、それほど大きなことではないということです。もちろん多少は文化の違いや考え方の違いはあると思いますが、日本人だから外国人だからとかではなく、やっぱり大切なのは人と人とのつながりなんだなと改めて感じることができました。もちろん世代は違ってもシェアメイトたちの事は大好きなので、これからも若いパワーを吸収したいと思っています。

初めてのホリデーは、2週間というなかなかの長旅でしたが、得るものがたくさん充実したものになりました。

最後に、文化交流つながりで、Japan club についてご報告したいと思います。

Cathedral school には、毎週月曜日の放課後に Japan club という日本語や日本文化が好きな生徒たちが集まる部活のようなものがあります。

そこでは様々な日本文化に触れる機会があり、ジブリ映画を観たり、Wii で太鼓の達人をしたり、みんなで浴衣を着て忍者ポーズで写真を撮ったり色々なアクティビティをします。節分の時期には鬼のお面を作ったりお箸で豆掴みレースをしたりと、季節に合ったアクティビティもあります。先日の Japan club では、みんなで千羽鶴を折りました。もちろんまだ千羽も折れてはいません。日本人は器用だから日本の子供にとっての当たり前がオーストラリアでは当たり前ではないと研修などで先輩方から散々言われてきましたが、本当にそうでした。もちろん中には、折り方もすぐに覚えてきれいに折れる子もいましたが、つきっきりで一緒に折っても、どうしたらそうなったのか理解し難いような出来になってしまう子もたくさんいて、なかなか苦戦しました。この日は全部で 20 羽くらいしかできませんでしたが、これからこの Japan club やその他の授業の時間を少しずつ使って鶴を折ってもらい、出来上がった千羽鶴は日本に届けられる予定です。今年 9 月に Japan tour という 9 年生から 12 年生の希望者が日本に行く研修があるのですが、その時に広島平和記念公園に持って行くそうです。最初にそれを聞いた時、なんだか日本人として本当に嬉しく思いました。遠く離れた国で、日本の歴史について学び千羽鶴の意味を知り、苦手な折り紙で一生懸命鶴を折ってくれている事を考えると、なんだか胸が熱くなりました。今、日本とオーストラリアは非常に良い友好関係にあると思いますが、政治や経済上とかではなく、根底でこういったお互いの文化や歴史を知ること、国と国ではなく人と人がつながることさらに良い関係が築けるんだろうなどと、考えさせられるものがありました。そして私もそのつながりの小さな一部分になれたらなどと思います。

なんだか長くなってしまいましたが、良い感じにまとまったのでこの辺で終わらせて頂きたいと思います。また来月もどうぞ宜しくお願いいたします。（5月10日）

10年生の遠足

ロレト・カレッジ (バララット、VIC)
大田 詠 舞

こんにちは。こちらは日に日に寒くなり、上着が手放せない季節がやってまいりました。日本は少しずつ暑くなっている頃でしょうか。

さて、私事ですが、ホストファミリーが変わりました。一学期は日本語の先生のお宅でお世話になっていたのですが、二学期から日本語を勉強している九年生のお家にいます。毎日一緒に日本語のドラマを見たり、お互いが好きなケーポップの動画を見せ合ったりして、楽しく過ごしています。ホストシスターは本当に勉強熱心で、ラングイッチパーフェクトというオンラインのサイトを使っていつも日本語を勉強しています。こちらに来て初めてラングイッチパーフェクトを知ったのですが、目からうろこでした。ラングイッチパーフェクトはゲーム感覚で単語を覚えることができます。次々と単語が出てきて、発音もしてくれるし、単語を日本語から英語もできれば、英語から日本語をタイプすることもできます。楽しく、またアプリもあるので気軽にどこでも勉強できるところに魅力を感じました。日本にも来ているかはわかりませんが、日本の教育にも使えたらきっといいだろうなと思っています。それから、ホストファミリーに冷麦を作って一緒に食べたり、メルボルンのダイソーでゆかりふりかけを買ってご飯と食べたり、韓国の辛いヌードルを作って食べたりしながら、日本色に染まって欲しいなと目論んでいる日々を過ごしています。

そして、この一か月もとても濃いものになりました。まず、「ウォーカソン」というイベントがありました。チャリティーのための行事で、みんな仮装をして外を練り歩きます。今年は天気あまり良くなかったので、学校の近くの公園を歩いたあと、学校

のすぐそばにある湖を一周ただけで終わりました。道の途中ではお菓子や飲み物も売っていて、それを買うことによりそのお金がチャリティーに使われます。そしてお昼休みの後は、仮装ショー！？が開催されます。今年のテーマは「Around the World」でした。そのテーマで生徒のみならず先生まで、衣装を手作りします。今年はキャビンアテンダントに扮した生徒が司会を進行し、音楽に合わせて学年ごとに体育館の中を歩きました。総一位だったのはエジプトの仮装をした七年生でした。ラクダやピラミッドに仮装していて面白かったです。飛行機やキャビンアテンダントの仮装が多く、私の一押しは、中身まで細かく書かれていたパスポートです。行事があると、可愛い生徒たちが声をかけてくれたりするのでとても幸せなひとときでした。


次に、テストについてお話しします。11年生、12年生はリスニングのテストがありました。11年生は、食べ物やレストラン、食べ物に関する形容詞や開店・閉店時間などの理解を問われる問題でした。読解が得意な生徒は多いですが、リスニングは少しはやいのもあり、大変そうに見えました。それでもたくさん勉強してくれた子は良い点数を取っていたので、ほっと一安心でした。これから重要な文法を学んでいくので、授業を楽しみながらも一緒に頑張っていきたいです。

12年生のリスニングのテーマは「教育の変化」です。教育に関する単語をたくさん勉強し、リスニングも練習してのテストでした。覚える単語も多く、今までに習った文法も含まれているので、難易度は少し高かったかもしれません。人間は忘れる生き物なので、やはり何回も復習することが必要だと改めて感じさせられました。今が踏ん張り時だと思います。

最後に、10年生の遠足について書かせていただきます。遠足のスケジュールは、まずメルボルンで二番目に大きいモナシュ大学に行き、「Why learn Japanese?」という講演を聞き、日本料理を食べた後日本のお

菓子を買って(?)カラオケをして終わるといような感じです。講演では、お話だけでなく太鼓の演奏や空手などを見ることができ、飽きないような内容になっていて濃密な時間でした。それから行ったお店は「ギョウザドウラク」さんです。ランチにはセットが二つあり、わたしは14ドル90セントの高い方を選びました。このセットはもともと玉子焼きと味噌汁がついて、メインを二つ、そばかご飯を自分で選択します。わたしはメインをから揚げとサーモンのお刺身にして、そばを頼みました。味も美味しく、量もあって大満足でした。これを高いと思わなくなった自分はだんだんオーストラリアンプライスに慣れてきたという証拠でしょうか……。そして気になるお箸！驚くことに、お箸を使える子がたくさんいました。数人の子はフォークを使っていましたが、お箸を使ってみようと頑張っていたので、その気持ちが大事なんだ！と勝手に胸が熱くなっていました。そばは未知の世界だったのか、二人しか聞いていませんが、二人ともに顔をしかめられました。看板メニューであるギョウザが美味しかったと言ってくれたので、わたしが作ったわけではありませんがとても嬉しく感じました。そこからはダイソー組とチャイニーズグロッサリー組の二手に別れて、少しだけのショッピングをしました。チャイニーズグロッサリーはそれほど高くなく、日本のお菓子がたくさん揃っています。わたしもお目当てのハイチュウを見つけて心の中でガッツポーズをしました。生徒にこれは何？おすすめは？と聞かれて舞い上がり、ぼんぼんお菓子を買ったらなんと20ドルも買っていました。生徒たちはポッキーや抹茶のキットカット、ドラえものの可愛いキャンディーなど各自いろいろなお菓子を買っていました。一番最後に歩いている生徒と並んで話しながら歩いていると、なんと自分の食べていたポッキーを差し出して「いる？」と聞いてくれたのです。「いいいいいよ」と一度は断ったのに、またくれようとしてくれて、その子の優しさに涙

がちよちよぎれそうになりました。その子は会うといつもニコリ笑ってくれる可愛くて優しい子で、帰ったらわたしいくらでも食べられるのに！と申し訳なく思いながらありがたくいただきました。そのあと、なんと違う子もぷっちょをくれたのです。これまた断ろうとしたのですが、「わたしたくさん買ったから」なんて言っちゃって来て、ポケットからたくさんぷっちょを出して見せてくれたので(全部ぷっちょ)、なんだか胸がいっぱいになりました。カラオケは寄り道(お菓子)したので時間はあまりなかったものの、高い確率でみんな最初にレリゴーを歌い、立って歌う生徒、座って歌う生徒、また各部屋によって選曲が違うのを楽しみつつ、遠足は終わりました。個性が強いロレットガールズ、生徒たちを見ているとのびのびいい環境で育っているんだなとしみじみ感じます。みんなキラキラしていて素敵な子たちばかりで、時には元氣すぎるころもありますが、わたしはその力強いパワーと笑顔から元氣をもらっているのだと感謝ばかりです。(5月10日)



二学期になりました

クライストチャーチ・グラマー・スクール
(パース、WA)
石田 直士

何もすることがなかった2週間の休みが終わり、いよいよTerm 2に入りました。5月に入ってから、冬が近づいてきたので、だんだんと気温がさがっていき、朝や夜は長袖でないと寒くなりました。そして、この月もいろいろなことがありました。例えば、この前の休みの間にわりと仲の良かったインド人レンタがインドに帰ったり(ただ、今年の10月からまたクリケットの時期になるので、そのころに帰ってくるつもりなのですが)、イギリス人レンタが2ヶ月前、僕らと一緒にサッカーしている時に

痛めた膝の古傷が痛みだし、松葉杖生活になったりしました。したがって、僕らが彼のちょっとしたお世話（彼が道路を横切るときは、誰かが車が来てないかみたり、いつもは学校の食堂でみんなで晩ご飯を食べるのですが、松葉杖になってから、あんまり動きたがらなくなり、食堂に来なくなったので、彼用の晩ご飯のテイクアウェイを貰ったり）をしなければなりません。しかし、隣の部屋のスコットランド人が大音量でラップの音楽を聴くのを除くと、快適に生活できています。そんなレンタですが、イギリスから新たにレンタが来たので、今は7人で生活しています。しかし、この学期中に、今いるイギリス人3名と南アフリカ人1名が帰るので少しの間は3人になります。

そして、職場の話になりますが、パースの北の方にあるカーティン大学から大学生が教育実習で一学期間、日本語のクラスで授業をします。僕の主な仕事内容は11年生と12年生の会話練習なので、直接影響はしないのですが、たまにその教育実習生の手伝いも僕がするので、仕事の量は少し増えた気がします。そして、この月は様々なイベントがありましたので、今回はそれについて書きたいと思います。先日、East West Day という、9年生を対象としたイベントがありました。East West Day の目的は様々な文化を知ってもらうというものです。僕らの日本語のチームは書道と折り紙を体験してもらいました。その日は休憩がとれない立ち仕事だったので、いつもより疲れましたが、普段は日本語の授業をとっていない生徒も楽しそうにやっていたので、とてもよかったです。そして、普段は土曜日に仕事はないのですが、この月は様々なイベントがあったので、土曜日でも少し手伝いをしなければなりません。例えば、11年生のスクールボールが学校の体育館で行われたので、その事前準備と後片付けや、クロスカントリーの手伝い等です。クロスカントリーの手伝いは土曜日の朝の3時間ぐらいで、オレンジのコーンをたてたり、

車の誘導をするぐらいなので、やる内容は比較的楽なのですが、気温が下がった今の時期でも、日差しはわりと強いので、少し体力的にしんどいです。しかし、こういう風に、土曜日に仕事があったときは、逆にその次の日の日曜日を有効的に使えたような気がします。先日の日曜日の朝は、レンタ数人と近くのバーに行って、パッキョオとメイウェザーのボクシングの試合を観戦しに行ったりと充実した日曜日を過ごせました。しかし、来週からまたイベントが重なり、さらに忙しくなりそうですが、頑張っていきたいと思います。（5月10日）



自分らしくホリデーを楽しめました

シーロン・グラマー・スクール コライオ校
(シーロン、VIC)
今泉 佳菜

こんにちは、4月の報告をいたします。報告書の季節がくると、また1ヶ月経ってしまったのかと驚愕せずにはいられません。こちらはもう冬支度が始まったという感じで、街行く人の格好も、ショーウィンドウに並ぶ服もがらりと変わりました。ただ学校の中では、先生の服装は変わっても生徒はなかなか衣替えしないため、初めの頃は彼らを見ていて、まだそんなに寒くないかと錯覚していましたが、そのうち気づいてちゃんと着込むようになりました。今ではさすがにセーターやタイツなど冬の制服を着る子も増えましたが、いまだに半袖半ズボンの子もまだまだいます。こちらはコートを着ているのに・・・若さって強いです。

今回、初めてのホリデーがありました。約2週間、大学を卒業して以来の長い長い休みです。最初の1週間は家で過ごしました。他のルームメイトは大半が旅行に出かけて居なかったので、久々に一人の時間を持ってそれはそれでよかったです。庭で読書をしたり、料理をしたり、ジムにで運動したり、学校の周りをサイクリングしたり

していました。ある日は、日本人の先生のお宅に呼んでいただき、たまたま重なったので先生の旦那様のお兄さんのお誕生日パーティーにまぜていただきました。ご家族はもともとイタリアのシチリア島出身で、末っ子の旦那様が生まれる前にオーストラリアに移住してこられたそうです。その日はお兄さんと2人のお姉さん、お嫁さんや先生のお子さんの従兄弟たちが集まりかなりの大所帯になりました。お姉さん方は皆大らかで、よそ者の私を暖かく歓迎してくださいました。年を重ねてもこのように一堂に会して誕生日を祝うのはとても良いことだと感じました。子供は全部で7人いて、普段学校で会う生徒よりもさらに幼くて、とても可愛かったです。オーストラリアの子供たちの間で流行っている遊びなどを教えてもらいました。夜子供たちが眠るとき、今日一日遊んでくれてありがとう、といって一人ずつおやすみのハグをしにきてくれて、その時はもうクラッときてしまうほど愛らしかったです。日本に帰る前にもう一度会えたらと思います。

また一日は、一人でメルボルンを観光しました。メルボルンは学校のあるコライオから電車で1時間のところにあるとても大きな都市です。これまでルームメイトと何度か来ていましたが、ゆっくりと見られてはいなかったもので、次の週の下見も兼ねて、地球の歩き方を片手にいろいろ歩き回りました。古い建物が沢山残っている中に新しい街並みも混在していて、トラム（路面電車）の前を観光用の馬車が横切ったりして、路上で絵が売られていたり音楽が演奏されていたりと、とにかく盛りだくさんな街です。その日は、NVGという国内現代アートの美術館や、オールドトレジャリーというゴールドラッシュ時代の博物館などいくつかの施設（全部入館料はタダ）を訪ねましたが、その中でもお気に入りの場所を見つけました。セントパトリックス大聖堂といってここはオーストラリアで一番大きなカトリック教会なのだそうです。もともと教会の建物や内装が好きで、前にイタリアを

旅行したときに散々見たのですが、ここはそのどれとも違って、やさしい光で満たされていて、不思議な懐かしい気持ちになります。とても大きい教会で建物自体も見ごたえがあるので、メルボルンにお越しの際はぜひ立ち寄っていただきたい場所です。私はすでに3回行きました。

2週目は、タウンズビルに派遣中の前田愛ちゃんと現地集合してパースを旅行しました。パースに決めた理由は特になく、ホリデーの予定を立てられないまま日々の生活に追われていたところ、ルームメイトのドイツ語のアシスタントが早々とすべての予約を済ませたので、それに乗ったという感じです。当初まったく考えもしなかったところに行けてよかったです。途中天気が崩れた日もありすこし残念でしたが、世界一住みやすいといわれている都市らしく、気候は過ごしやすく快適でした。主に滞在したフリーマントルはパースから電車で30分程度の場所にあり、イースターのイベント中だったこともあって町中音楽やパフォーマンスで賑わうかなり陽気な街でした。ドイツ人のルームメイトと合流して、街を散策したり、船でロットネストという島にいったサイクリングをしたり、ビーチでリラックスしたりして過ごしました。旅の資金を節約するために毎回は外食せず、宿のキッチンで簡単な食事をつくって食べたのもいい思い出です。ただ代わりに毎晩フローズンヨーグルトを食べにいったので結局食費は結構かかりましたが、。ドイツ人の子も私と同年なので、やはり同世代の女の子同士だから分かり合える話というのはとても楽しかったです。たくさん食べて飲んで笑って元気をチャージできました。

色々こまかなトラブルもありました。まず初めに、飛行機の到着時間だけしかお互い伝えずに空港で待ち合わせたこと。降りてターミナルが複数あり、そこで馬鹿さに気づきました。愛ちゃんは乗り換え便で、出発地がどこかさえ把握していなかった自分に呆れました。到着後に電話で連絡を取

り合い、出会えてほっとしたのもつかの間、ホテルに向かうタクシーの中に携帯を忘れました。タクシー会社に届け連絡を待っていたところ愛ちゃんの携帯に私の番号から着信が。発信元はタクシー会社ではなく同じタクシーに後から乗った人、拾って今持っているとのこと。都合のよいことに、その日私たちが移動する先の町に滞在していることがわかりその駅で受け取れることになりました。なんで拾った時点で預けず持って降りちゃったのか謎ですが、親切に返してくれたのでよかったです。運転手さんに盗られることまで心配してくれたのでしょうか、。宿のwi-fiがどうしても不安定で結局満足に使用せず、パースにいる間、石田君に連絡できなかったことも誤算でした。

結果的に最初のホリデーとしては色々な経験ができて旅慣れすることができ、知り合いと一緒に心細さもなかったのでよかったですと思います。学校の外に出ても自分でどうにかやっていく、ということに慣れてきました。次のホリデーでは一人旅もしてみたいです。バックパッカーの使い方もわかったので、次は注意深く選んで、もう少しだけ夜は静かで小ぎれいな所を利用したいと思います。

このホリデーという文化（制度？）は日本に無いものですし、日本とオーストラリアでそれぞれ余暇の過ごし方、もっと言えば生き方をすごく特徴づけているように感じました。こちらの人は数週間のホリデーを年に数回必ずとります。そしてたいてい家族でいろいろな場所に行きつくりと時間を過ごします。たしかにこれだけ休みがあれば、あくせく用事をこなしたり、混雑した観光地に無理やり出かける必要はないと感じます。日本に暮らして日本の社会で働いていたなら、いきなり毎年長い休暇をとることは簡単ではないです。でも、なにも特別なことをしないのがいい、という休みの考え方は好きになりました。そしてもっと家族と一緒に過ごすことを大切にしたいと思うようになりました。

早くも2学期が中盤に差し掛かっています。学校の仕事には大きな変化はありませんが、慣れてきた分、より多くのことに取り組んでいます。のこりの8ヶ月、一瞬一瞬を大切に丁寧に過ごしていきたいと思えます。ではまた、来月に。（5月10日）



☆ ホリデー便り ☆

ヒルズ・カレッジ（ジンブンバ、QLD）

長田 悠里

時が過ぎるのは早いもので、ターム2が始まって3週間が経ちました。Hills CollegeがあるJimboombaは、だんだんと冬に近づき、朝晩10℃を下回り寒さを感じる日が増えてきました。今回は、ターム1後のホリデーとホリデー中に来たシェアメイトについて書きたいと思います。

ターム1が終わって2週間のホリデーがありました。ターム1最終日は、次の日からイースターホリデーということもあり、うさぎの耳を付けているクラスがあったり、イースターエッグをかごいっぱいに入れて配っている子どもがいたり、お祭りのような雰囲気でした。今回のホリデー中の旅

行先はシドニー、メルボルン、ケアンズでした。シドニーでは、ブリッジライムを体験しました。1時間で終わると思っていたブリッジライムは、着替え・説明を入れて3時間コースでした。夕方スタートのコースでしたが、頂上に到達するころには360度見渡すことのできる夜景を見ることができ、とても感動しました。下りのときは、まっすぐ前を向いて降りていると、まるで空を歩いているかのような感覚になりました。メルボルンは、街がヨーロッパ調で雰囲気があるので、歩いているだけで楽しむことができました。夜になると街のあちこちで楽器を演奏している人や歌っている人を見ることができて、とても素敵でした。ケアンズは、一人旅だったので心配でしたが、人生初のラフティングや鉄道列車に乗って行くキュランダなど十分に楽しむことができました。今思うと、子どもの頃はお寿司を頼むときでさえ姉にお願いしていた私が、海外で一人旅をして、最終日にはそこで出会った人と半日近く話をしていたと思うと、本当に驚きです。

旅行から帰ると、一人部屋だった寮の部屋にシェアメイトが来ました。私と同じアシスタントとしてではなく、HillsのKindy(保育園)でリトミックを取り入れるためのカリキュラムを作るために来た日本人の女性です。リトミックとは、音楽を使ってさまざまな活動を行い、その活動を通して音感やリズム感だけでなく、情操教育や言語や数といった生活するうえで必要となることなどを子どもたちが自然に身に付けられるようになる教育法のことを言うようです。これを機会にたくさん話を聞いて、リトミックについて知ってみたいと思います。彼女が来てから、寮に帰るのが楽しみになり、一日一回はお腹が痛くなるほど二人で笑っています。(ティータイムをする機会が増えたので、体重増加に拍車がかかりそうです。)

近いうちにKindyでも日本語の授業が始まり、そちらの手伝いにも行かせていただけるみたいなので、仕事の方もより一層気

を引き締めて頑張りたいと思います。

(5月10日)



ハーバーブリッジライム(シドニー)



王立展示館(メルボルン)



フリンダーズ・ストリート駅(メルボルン)



バロン川ラフティング(ケアンズ)



バロン川ラフティング(ケアンズ)

次月号もお楽しみに

